

総合的な学習の時間を軸としたカリキュラム・マネジメント

～生徒の資質・能力の教科等横断的な育成～

枚方市立第一中学校



Why

なぜ取組みを進める必要があったのか（実態・背景）

- 「自分にはよいところがあると思う」（全国学力・学習状況調査 生徒質問紙）に対する肯定的評価の割合が2年間で10pt減少していた。
- 自分の意見を発信することにためらいがあり、意見の交流場面に対して難しさを感じていた。
- 生徒の自己肯定感が下降傾向にあることが本校の大きな課題として捉え、日々の教育活動をととして自己肯定感を高めていくことを取組みの中心に据えた。

How

どのように取組みを進めたか（取組みの概要）

- 初年度は取組みのターゲットを3年生に絞り、総合的な学習の時間を軸として生徒の学びをコーディネートし、2年次に全学年で取組みをスタートした。
- 学校全体の取組みとする際、グランドデザインを作成することで、教職員の意識を統一し、教科の壁を超える仕掛けを作った。
- グランドデザインで示した資質・能力を身につけるために年間計画を見直し、授業改善を推進した。

Change

どのように変容したか（学校・保護者・地域等）

- 職員は身につけるべき資質・能力を意識した授業計画をつくることで、学校全体の取組みへと深まった。
- 生徒は共に学ぶ姿勢が身につけ、積極的な意見交換ができるようになり、「話し合う活動」に関するアンケートの強い肯定回答が、14.7pt上昇した。
- 他者の意見と自分の意見の違いに気付き、多角的な視点で課題を捉えようとするようになった。
- 学校アンケート（保護者）における「先生は子どもの意見や考えを大切にしている」の項目で肯定回答が12.7pt上昇した。



1. 令和元年度（研究初年度）の取組み

- (1) 研究の概要
- (2) 3年生の取組みを起点に
- (3) 3年生の取組みを学校全体の取組みへ
- (4) 生徒・保護者への発信

2. 2年次の取組み～逆算した計画と教科等横断的な視点～

- (1) 全学年で取組みをスタート
- (2) 具体的な取組み～1年生～今後の課題

3. 次年度に向けて

- (1) 2年間の成果と課題

1. 令和元年度（研究初年度）の取組み

（1）研究の概要

○本校の教育目標

「考える 思いやる たくましく生きる」

○生徒の実態

外部の有識者（関西外国語大学 坂本暢章教授）の助言に基づき、各種アンケートから本校の課題を洗い出し、特に生徒の自己肯定感が下降傾向にあることが本校の大きな課題として捉え、日々の教育活動をとおして自己肯定感を高めていくことを取組みの中心に据えた。

○研究テーマ

学習の基盤となる資質・能力の育成に向け、総合的な学習の時間を軸とし、教科等横断的に組織として教育課程を編成することで、

①自信をもって学べる子どもの育成

②「表現力（＝聞いて考えたことを自分の言葉で説明する力）」・「コミュニケーション力（＝多様な考え方を持つ人に対し、自分の意見を臆せずと言って合意形成を図る力）」の育成

③主体的・対話的な学びの実現による学力向上

○研究仮説

グループで納得解を出させたり、他者の考えを参考にしたりしたくなるような課題や問いを工夫することで、安心して自分の考えを話すことができる学習環境をつくり、自己肯定感を高めることができる。

「自分にはよいところがあると思う」

（全国学力・学習状況調査 生徒質問紙）に対する肯定的評価の割合

H29 72.1%（本校） 70.7%（全国） 【+1.4pt】

H30 77.7%（本校） 78.8%（全国） 【-1.1pt】

R01 62.6%（本校） 74.1%（全国） 【-11.5pt】

(2) 3年生の取組みを起点に

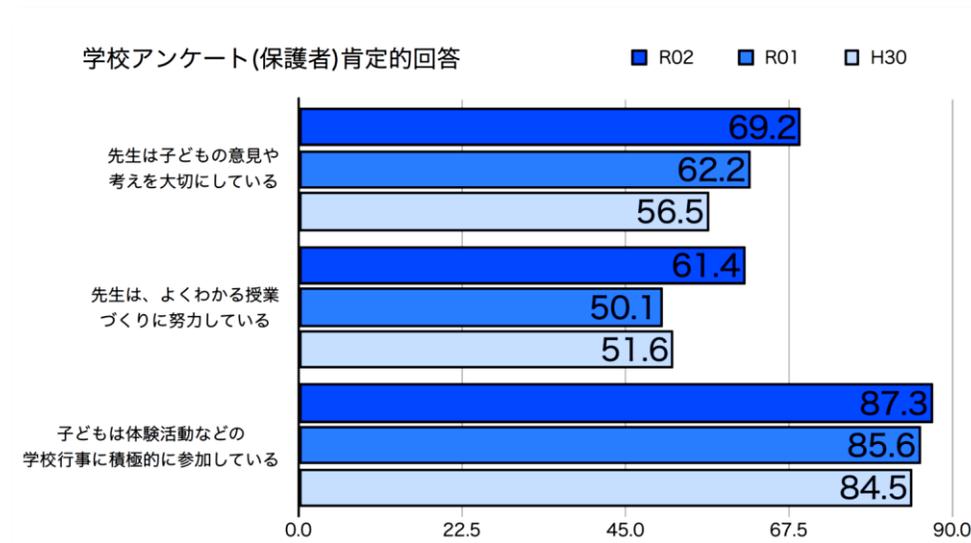
○ねらいを絞る

研究初年度は3年生をターゲットに取組みを推進していくこととした。総合的な学習の時間を柱として、教科のつながりを学年会で確認し、効果的に生徒の資質・能力を育成していく計画を立てた。具体的な目標として、「2学期末に、自分達が調べた内容について自信を持って発表すること」とし、「表現力」「コミュニケーション力」を教科等横断的に育成していくことをめざした。

○学習形態・学習環境の整備

4人班を基本とした学習形態を推進し、考えたアイデアを書き出すことができるよう、各班に1枚のホワイトボード(45×60)を設置した。例えば、道徳では「家族がドナーカードを記入せずに脳死したときどうするか？」(指導案・ワークシートは次ページ参照)などの課題設定を工夫することで、ホワイトボードに自分の意見を書いたり、班で意見をまとめたりする仕掛けを作りだし、他者の意見を聞きたくなる発問の工夫を推進することができた。この発問では、生徒が家庭内に議論の場を移すなどし、多角的な視点を取り入れようと主体的に学びを進めることができた。

このように、生徒が主体性を持ち、学びの場を学校だけでなく家庭にも持つことで、保護者に対する学校アンケート(5件法)の結果では、多くの項目で肯定的な回答の割合が上昇した。(右グラフ参照)



問題解決的な学習の展開

臓器移植を巡る迷いをもとに生命の尊さについて問題解決的に学習する展開である。中学生の時期は、身近な人の死に接したり、自分の命のありがたさを感じたりする経験がまだ少ないと考えられる。臓器移植を巡って自分や身近な人の生命について深く考えさせることで、生命のかけがえのなさを、尊重する態度を深めたい。

学習指導過程		導入 展開 終末	実物の臓器提供意思表示カード 臓器移植の手続きを受けた人の手記など
学習活動		指導上の留意点【発問の意図】	
導入 5分	1 臓器移植について知る。 発問○臓器移植や臓器提供意思表示カードについて知っていますか。 臓器提供意思表示カードの具体物を見せる。(発問書)	○臓器移植に関する知識の共有化を図る。適宜、脳死についてなど情報を補足する。	
展開 15分	2 教材「臓器ドナー」を読み、考える。 発問①【問題をつかもう。】臓器移植を巡っては、どんな迷いや問題があるだろう。 ・生と死について。 ・臓器はほしいが、あげたくない。 発問②【自分で考えてみよう。】自分の意思を臓器提供意思表示カードに書き込んで、班で意見を交流しよう。 ・自分の大切な臓だから、自分勝手ではないと思う。 ・大切な家族なので、亡くなくても大切にしたいから。 ★発問③【問題について考え、議論しよう。】臓器提供の意思表示をしていない家族が脳死した場合、臓器提供することができるか、できないか、また、その理由を書いて、班で交流しよう。 ・班で紙に意見をまとめる。 ・班で意見をまとめたら、他の班の紙を見に行く。	○教材を読んで感じたことを出させながら、以降の発問で自分の問題（自分事）として考えられるようにする。 ○生命に関する判断は直ぐ難しいものであり、だからこその命のかけがえのなさについて深く自覚し尊重することが必要であり、正しい答えなどないことに気づかせる。 ○自分の命だけではなく、大切な人の命についてもどう判断するかを考えさせることで、生命尊重に関わって自分なりの道徳的判断に意識が向くようにする。 ○班で意見を共有し、互いの考えを理解し合う。	
終末 5分	3 今日の学習を振り返る。	○教材中の人物や友達など、生命に対するさまざまな情報に触れたうえで、今の自分の生命に対する思いを振り返らせたい。	

臓器提供意思表示カード
情報
・生前に意思表示
臓器ドナー
・生命の尊さ
板書例

○臓器移植を巡る迷いや問題
 ・生と死について。
 ・臓器はほしいが、あげたくない。
 ・自分の命とほかの人の命。

16	自他への生命の尊さ 臓器ドナー	教科書 96～99ページ
〈1, 2, 3, いずれかの番号を○で囲んでください〉 1. 私は、 脳死後及び心臓が停止した死後 のいずれでも、移植のために臓器を提供します。 2. 私は、 心臓が停止した死後 に限り、移植のために臓器を提供します。 3. 私は、臓器を提供しません。 〈1又は2を選んだ方で、提供したくない臓器があれば、×をつけてください〉 【心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・眼球】 (特記欄： 署名 年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 本人署名(自筆)： _____ 家族署名(自筆)： _____		

考えてみよう
 臓器提供の意思表示をしていない家族が、脳死をした場合、臓器提供しますか？

【 はい ・ いいえ 】
 理由

振り返り
 今日の学習で気づいたことや考えたことをまとめてみよう。

自分への振り返り ○印をつけよう。

今日の授業の内容は	印象に残った	_____	印象に残らなかった
友達の意見や話し合いから、新しい発見や気づきが	あった	_____	なかった
自分の考えを深めることが	できた	_____	できなかった
これから大切にしたいことが	わかった	_____	わからなかった



指導案データ



ワークシート

○教科等横断的な視点で、資質・能力、知識・技能をつなぐ

本校では、教科間の内容をつなぐだけでなく、資質・能力や必要とされる知識・技能、学習技法をつないでいくことを重視した。

国語科では、記述内容から読み取れることを班で協力してホワイトボードにマトリクスでまとめたり、数学では活用問題の解説をホワイトボードにまとめて説明したり、理科では実験をする前に今までの知識を使って、実験結果の予想とその根拠を各班がホワイトボードにまとめて発表したりした。

このように、総合的な学習の時間だけでなく、道徳を含めた全教科が4人班の交流を基本とし、意見を出したくなるような発問の工夫をしたり、理由や根拠を記述させたりし、その意見や記述に対して双方向のやりとりを促し、生徒がこれらの力を使って、自信を持ってプレゼンテーションができるようにした。このような経過をたどり、生徒は、班学習や発表時に自分の意見を言え、意見の相違があったとしても、他者と合意形成ができるようになった。



○初年度の成果

2学期末には体育館で保護者も交え、全員がポスターにまとめた資料を発表し、自分の見解を述べ、他者からの質問にも自分の考えを織り交せて返答することができた。また振り返りでは「新しい疑問を発見したのでさらに探究したい」などの記述があった。

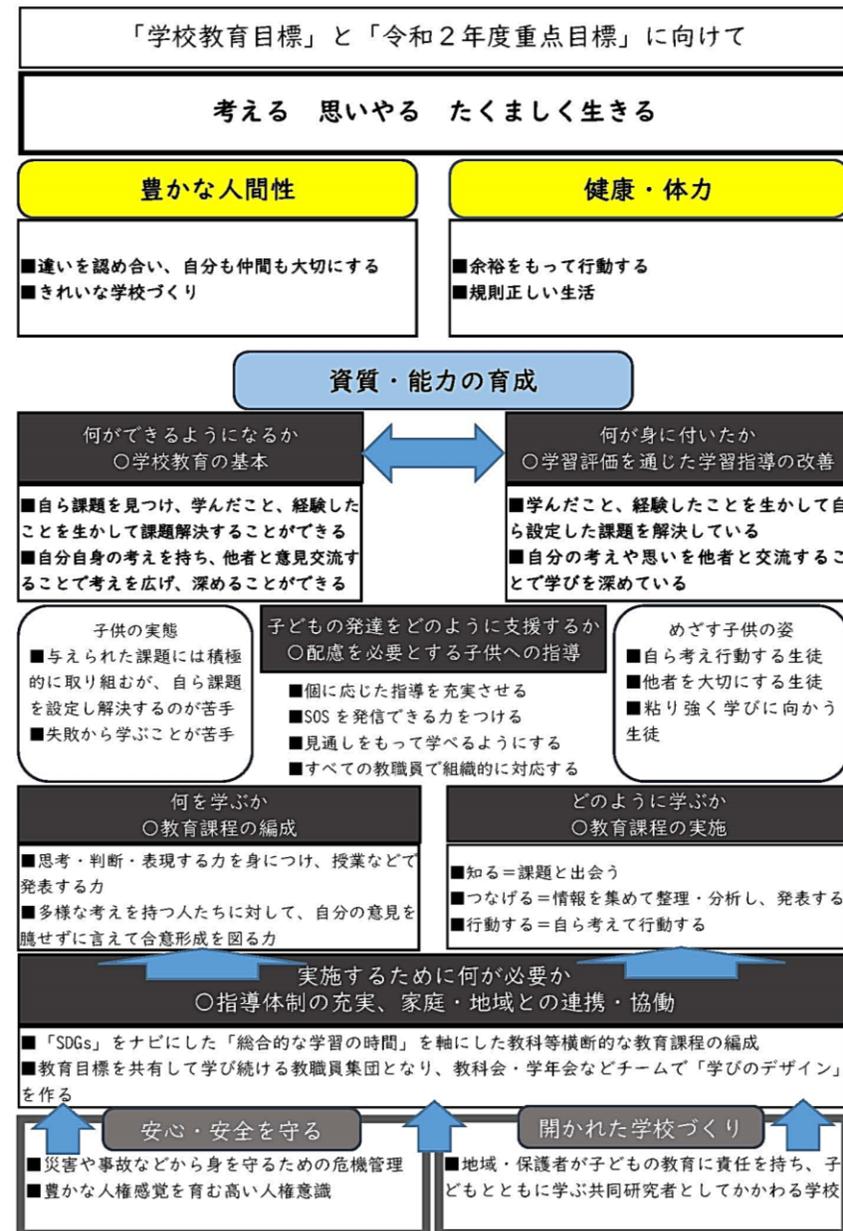
研究初年度の取組みにより、生徒の主体性が育ち、自分の意見に自信を持って発言し、他者の意見にも誠実に向かい合える生徒集団となった。生徒の年間の振り返りでは、総合的な学習の時間や道徳についての内容記述が多く、「もっと上手く説明したい」「高校でも探究活動を続けたい」など前向きな姿勢が伺えた。特に、自我を出すことが苦手であった生徒が「先生たちの授業のおかげで、自分の意見を言うことが楽しいと気づくことができた」という振り返りを書いたことは、これまでの取組みの1つの大きな成果であると考えられる。教員はこれらの成果を実感し、「1年生の頃からこの取組みをすればさらに力がつく」という自信をもって、次年度の取組みを練ることができた。

(3) 3年生の取組みを学校全体の取組みへ

○学校のグランドデザインを作成する

学校全体のベクトルを揃えるため、取組みを推進する「明確な根拠」を作ることとした。管理職のリーダーシップのもと、教職員全員で卒業までにつけるべき資質・能力を策定する「学校のグランドデザイン」を作成した。その目標と資質・能力は教育目標に基づき、「自ら課題を見つけ、学んだこと、経験したことを生かして課題解決することができる」「自分自身で考えを持ち、他者と意見交流することで考えを広げ、深めることができる」の2点とした。

研究初年度は3年生をターゲットに取組みを推進していくこととした。総合的な学習の時間を柱として、教科のつながりを学年会で確認し、効果的に生徒の資質・能力を育成していく計画を立てた。具体的な目標として、「2学期末に、自分達が調べた内容について自信を持って発表すること」とし、「表現力」「コミュニケーション力」を教科等横断的に育成していくことをめざした。

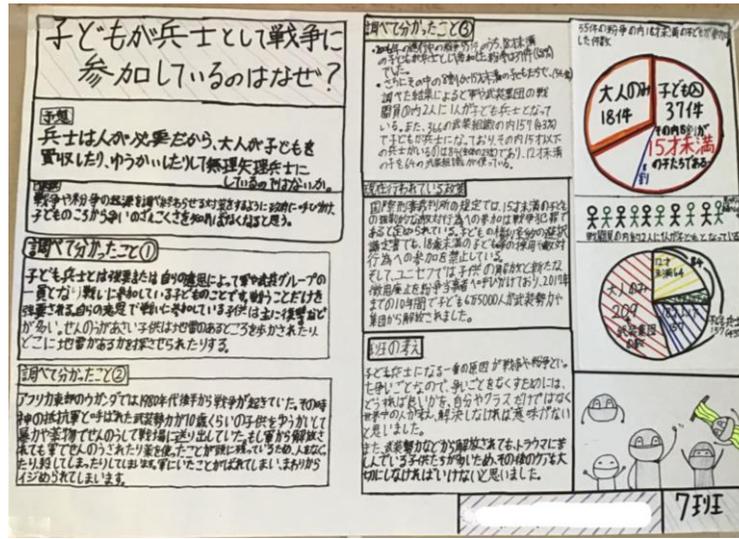


○具体的場面の設定

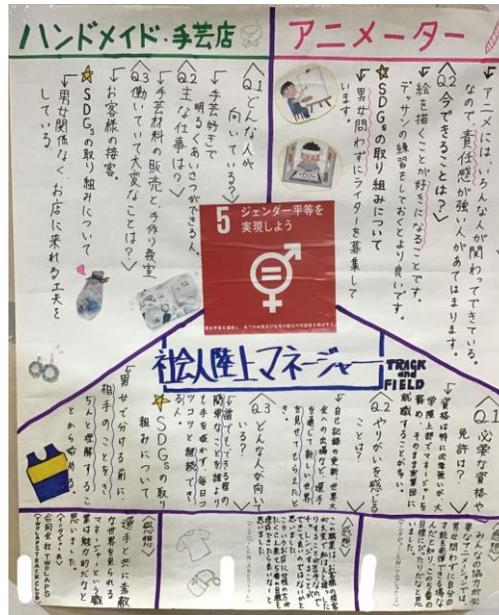
力を発揮する場面を具体化するため、各学年で各学期にどのような資質・能力を身につけるのかを明確化した総合的な学習の時間の計画を作成して共有した。SDGsを題材として、「3年生で調べたことと自分の考え」をプレゼンテーション形式で発表し、さらに「行動として実践していくこと」をゴールとし、教職員が資質・能力の具体的なイメージを持てるようにした。

○巻き込む力

本校では見直しや新しい取組みについて、教員からの肯定的な意見が大半を占め、「子どものためならやろう」「まずはやってみよう」「前向きな意見は応援しよう」という雰囲気がある。そして、研究指定を受ける前と比べて、取組みが決定されてからのスピード感が増してきている。これも、生徒の育成すべき資質・能力が明記された「グランドデザイン」という同じ目標を持ち、教職員の判断基準が明確になったことが影響していると考えられる。



1年生



2年生



3年生

○総合的な学習の時間 3か年計画

総合的な学習の時間において、各学年、各学期でつけたい資質・能力を明確にし、つけた力を発揮する場面や授業内容をまとめ、全職員で共有し、教科等横断的に生徒の力をつけることができた。

この計画に基づき、各学年の総合的な学習の時間担当者（学習・学力向上部）が案を作成し、学年会などで、その学年の生徒がより主体性を発揮できるような発問や課題の工夫を練り直したりした。

複数の職員が一緒に発問や課題を練り上げることで、教科の壁を越えて議論を進めることができ、職員の貴重な生きた研修の場にもなった。

また、新型コロナウイルスに係る計画の変更においては、「この計画に示した『つけたい資質・能力』をつけるためになにができるか」という幹があるため、授業内容の変更があったとしても、職員の視点はぶれることがなかった。

【1年】

	つけたい資質・能力	授業内容	つけた資質・能力の活用場面
1学期 夏休み	①SDGsについて知る ②探究的な学習の方法（特に「課題設定」と「仮説を立てる」ことの大切さ）を理解する	SDGsの目標16を利用した探究活動 10h 夏休みを利用して企業訪問	クラスでポスターセッションをワールドカフェ方式で実施する
2学期	①インタビューで情報収集ができる ②発表を聴いたら質問ができる ③ポスターセッション後に新たな課題を見つけることができる	コアタウンへの校外学習とSDGsをつなげた探究活動 20h	クラスでポスターセッション①をワールドカフェ方式で実施する 学年でポスターセッション②を実施する
3学期	①働くこととSDGsのつながりを考えるきっかけをつかむことができる	「職業調べ」「職業講話」などを通して企業のSDGsの取り組みを学ぶ 20h	クラスでポスターセッション①をワールドカフェ方式で実施する 学年でポスターセッション②を実施する

【2年】

	つけたい資質・能力	授業内容	つけた資質・能力の活用場面
1学期 夏休み	①SDGsについて知る ②インターネット以外の方法で情報収集ができる ③探究的な学習の方法（特に「課題設定」と「仮説を立てる」ことの大切さ）を理解する	①身近な問題をSDGsにつなげた探究活動 10h ②ポスターセッション①後の新たな課題と自分の職場体験学習での課題をつなげ、企業訪問の準備をする 8h ③職場体験先を探し、依頼する	クラスでポスターセッションをワールドカフェ方式で実施する
2学期	①発表を聴いたら質問ができる ②働くこととSDGsのつながりをつかむことができる ③ポスターセッション後に新たな課題を見つけることができる	①職場体験学習とSDGsをつなげた探究活動 20h ②校外学習を利用した探究活動 20h	クラスでポスターセッション①をワールドカフェ方式で実施する 学年でポスターセッション②を1年生を招待して実施する
3学期	自分の進路について考えることができる	ドリームマップの作成 8h	自分の夢をクラスでプレゼンテーション

【3年】

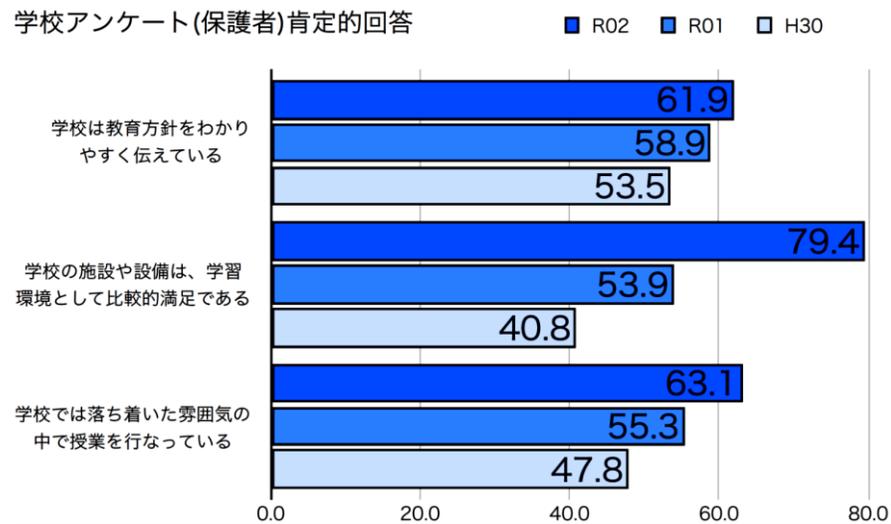
	つけたい資質・能力	授業内容	つけた資質・能力の活用場面
1学期	①SDGsについて知る ②インターネット以外の方法で情報収集ができる ③探究的な学習の方法（特に「課題設定」と「仮説を立てる」ことの大切さ）を理解する	①身近な問題をSDGsにつなげた探究活動 10h ②ポスターセッション①後の新たな課題と修学旅行での課題をつなげる	クラスでポスターセッションをワールドカフェ方式で実施する
2学期	①発表を聴いたら質問ができる ②ポスターセッション後に新たな課題を見つけることができる ③SDGs達成のための行動ができる	①修学旅行とSDGsをつなげた探究活動 20h ②実行計画を作り、行動する	クラスでポスターセッション①をワールドカフェ方式で実施する 学年でポスターセッション②を1年生と大人を招待して実施する
3学期	行動することで新たな課題を見つけることができる	SDGs報告会	在校生や関係する大人を招待してサミットを開催する

(4) 生徒・保護者への発信

新学習指導要領の実施に向け、本校でも授業改善を進めているが、保護者から、「なぜ班学習なのか」「板書を中心とした授業に戻してほしい」などの意見をいただくことがあった。

そこで、学校のグランドデザインを生徒・保護者へ公表し、「学力向上の取り組みNEWS」を新たに発行して、グランドデザインの意味や、なぜ授業が変わるのかを生徒・保護者へ発信し、ホームページで公表することとした。この「学力向上の取り組みNEWS」では、ICT機器の導入や学習スタイルの変化など、生徒・保護者の疑問に答えていけるよう定期的に発信していくこととしている。

学校の情報を積極的に発信していくことで、保護者に対する学校アンケートでは次のような変化が出ており、成果を見とることができたことから、来年度以降もこの取組みを継続していく価値を見出している。



学力向上の取り組みNEWS

～共に学ぼう、共に高め合おう～

発信していきます

近年教育界を取り巻く環境の変化はめまぐるしく、10年前、20年前の教育スタイルとは様変わりしています。

ICT機器の導入や、班学習の取り組み、総合学習の運営など、時代に合わせ、生徒に必要な資質・能力を育成していくために、外部の知見(大学教授や専門家など)を積極的に校内に入れ込んでいます。

保護者の皆様におかれましては、この教育の運営に戸惑いを感じられることもあると思いますが、「学力向上の取り組みNEWS」を定期的に発行し、少しでも「新しい一中の教育」をお伝えしていると考えています。

これから訪れるだろう激動の社会でも、一中学生が、自信を持って羽ばたいていけるよう、ご協力をお願いします。

新しい時代を生き抜くために

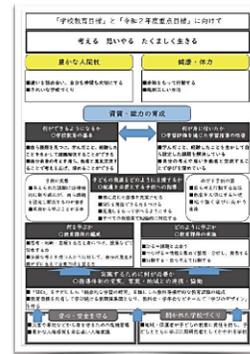
休校期間が終わり、2週間の分散登校を経て、6月15日より学校が再開しました。この4月からスタートするはずだった様々な行事や取り組みが実施できるかどうか、不安な中の再開でした。

右の資料は、学校の「グランドデザイン」と言われるものです。昨年度末に、新学習指導要領作成に携わっており、文部科学省中央教育審議会委員を務めている、横浜国立大学の高木展郎名誉教授に本校にいらいただき、本校職員が「どのような教育をしていきたいのか」を議論し、高木先生のお力添えのもと、教育目標をグランドデザインとして取りまとめました。来年度実施の新学習指導要領に基づき、一中学生が獲得したい資質・能力を明確にして、一中の目標を定めたものです。

このグランドデザインは、6月末に各学年の総合の時間に生徒には配布しており、ホームページでも公表しています。このグランドデザインに基づき、授業や取り組みなどを見直し、改善しています。

グローバル化やAIなどが急速に発達し、社会の構造が大きく変わっていく現代において、今までのような暗記中心の教育では国際社会の中で日本は取り残されてしまう。そこで教育を改革しようというのが新学習指導要領です。

めまぐるしく変化する社会で生き抜くためには、「受験で高い点数をとるためだけ」に勉強するという考えでは取り残されると、高木先生を含めたくさんの研究者が警笛を鳴らしています。今こそ学ぶとは何かを真剣に考えるタイミングなのかもしれません。受験でも、社会人になっても輝いて欲しい。そんな思いを込めて作っています。



2. 2年次の取組み～逆算した計画と教科等横断的な視点～

(1) 全学年で取組みをスタート

○生徒・教職員のベクトルを揃える

全生徒が同じ目標へ向かうことを目的とし、全学年で「総合的な学習の時間」を通して、これからの時代を生きていくうえでつけたい力について明確に示した、共通の「総合開き資料」を使い、全担任が同じ説明を全生徒にした。生徒にも「**3年生で力を発揮する場面**」を具体的に示すことで、生徒全員が“3年生で調べたことと自分の考えをプレゼンテーション形式で発表し、さらに行動として実践していくこと”という「ゴール」を見据えることができた。

○校務分掌の役割

全学年で総合的な学習の時間を充実させ、学校のランドデザインで示した資質・能力を育成するため、学習・学力向上部では週に1回の部会で、各学年の取組みを共有し、進捗状況を確認したり、総合的な学習の時間の計画を練り直したりした。また、相互参観授業週間を学期に1回定め、他の教科でどのような取組みをしているのか実際に目にする機会を作り、教職員が互いに刺激を受けながら、授業を改善しているように工夫している。（右図は相互参観用の授業参観シート）

授業参観シート

日時：()月()日()時～()時
 授業者：()先生 教科()
 参観者：()

① 11月6日公開授業で1回参観してください。
 ② 11月2日～11月13日までの期間で1回以上参観してください。

「中がめざす子どもの姿」 学校ランドデザイン

- 学んだこと、経験したことを生かして自ら設定した課題を解決している
- 自分の考えや思いを他者と交流することで学びを深めている

① 授業を見る観点を下の表から選んで参観してください。（すべてに記載する必要はありません）

観点	見つけた工夫やアドバイス
生徒が主体的に学習をすすめている工夫	
他者と交流することで学びを深める工夫	
生徒同士がつながりを持つ工夫	
生徒の学びを定着させる工夫	
板書の工夫	
生徒の学びを深める発問の工夫	
課題（プリントや教具）の工夫	
個に応じた指導の工夫	
生徒の学びを見取る工夫	

② 授業者の先生に質問/メッセージを書いてください。

※参観シートは授業者へ原本を、学力向上担当まで写しを渡してください。複写して使用してください。



(2) 具体的な取組み～1年生～

○ 1年生の目標

1年生の1学期の総合的な学習の時間では、まず、①SDGsについて知ること、②探究的な学習方法を理解する、の2点から取組みを始めた。また、力を発揮する場面は、班で協力して説明資料を作成し、ポスターセッションをワールドカフェ方式で実施し、全員が自分たちの考えを説明することとした。

○ 目標を見据えた計画

1年生の総合的な学習の時間第1期の計画は6月から9月中旬までの3ヶ月半の計画で、この計画に基づき、各教科が授業において育成した資質・能力を、どのように総合的な学習の時間につなげることができるのか、職員室内の単元計画表に書き込んでいくことで、効果的に生徒の力をつけていく工夫をした。



1年生総合
学習計画



1年生総合
ワークシート

学力向上の取組みNEWS

～共に学ぼう、共に高め合おう～

SDGsゴール16

平和と公正をすべての人に

1年生が調べた題材です。持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築することとしています。



SDGsゴール4

質の高い教育をみんなに

2年生は職業調べにSDGsの視点を関連させました。ゴール4は、すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進することとしています。



SDGsゴール5

ジェンダー平等を実現しよう

こちらも2年生の題材です。ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図ることとしています。



総合文化祭で多くの取組を発表しました (1)

1年生はSDGsゴール16の平和に関係する調べ学習をしました。「なぜ銃規制が進まないのか？」や「少年兵がいるのはなぜだろう」や「出生登録がされない国があるのはなぜ」などの課題から、班で選択し、仮説と予想を立てて協力して調べました。調べた内容はポスターにまとめてワールドカフェ方式という発表形式で全員がクラス内発表しました。絵が多い方がいいのか、文字が多い方がいいのか・・・悩みながら作成しました。

2年生は、職業インタビューを行い、その内容をSDGsの項目ごとにチーム分けしてまとめあげ、各クラスで発表を行いました。それぞれのチームが読み手に伝わる工夫を意識し、発表の形式から考え、作成したものです。ポスターでまとめたり、パワーポイントでまとめたり、飛び出す絵本でまとめたりと、様々な工夫した発表形式があり、他学年の興味をひきつけていました。

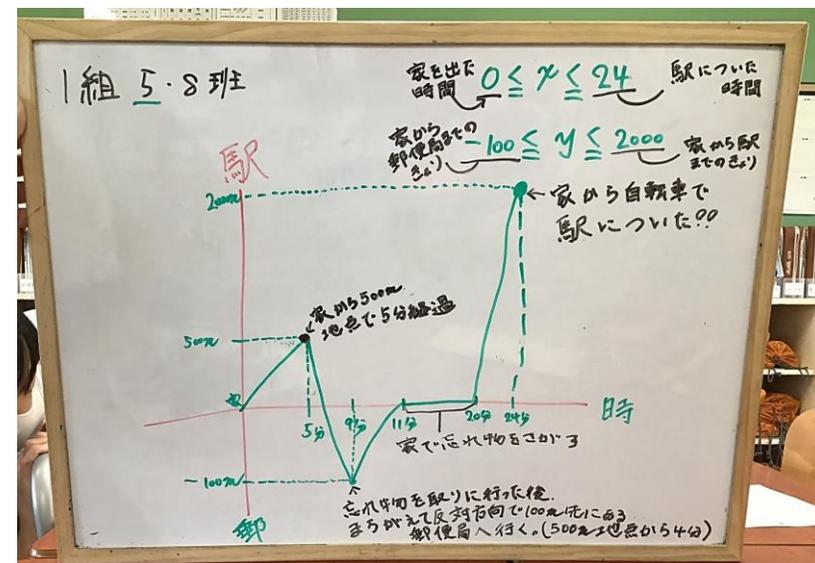
3年生は、2年生から取り組んできたはぎ新聞を作成しました。SDGsの各ゴールについての概要について1人1つ調べた内容をはぎサイズの用紙にまとめたものです。小さな用紙に、どの情報をどれだけ入れたら分かりやすくなるのか、よく考えながら作成されています。今後は、なぜ各ゴールが達成できないのかという視点で学びを深めていく予定です。



○教科のつながり

例えば国語の「空中ブランコ乗りのキキ」では「キキの考えと自分の考え、仲間の考えとの違いを知ろう」という発問から、「他者の意見と自分の意見の違い」について多角的な視点を持たせた。英語ではスピーチテストの前に、「伝わりやすいスピーチはどんなスピーチだろう」と生徒に考えさせ互いに気付き合える場面を作ったり、数学では活用問題を班で協力して解決し、ホワイトボードに、他者にわかりやすい説明資料を作成して、全員が発表したりする機会を継続して持つなど、発表時に必要な技能を、教科でつけるべき資質・能力と関連付けながら、学習をすすめていくことを意識した。

また、学習技法でも生徒の学びをつなげた。生徒の課題を共有し、つけるべき力を明確にして、発表する力を協働的につけることを目的に、ワールドカフェ方式や、各自が責任を持って学び輝く場面を創出するためのジグソー学習を複数教科で学習指導要領に則りながら取り入れ、生徒がより円滑に学べる環境を作り出した。



○取組みの進捗を見取る

生徒の力は「伸びている」と多くの教職員が「感じる」ことができた。学校自己診断アンケート項目「先生は、生徒の意見や考えを大切にしてくれる」の肯定的回答が、63.4%から70.9%に上昇したことからも、取組みの成果を見取ることができた。しかし、もっと正確にこの取組みの成果や課題を数値として振り返ることで、さらに本校の取組みを推進できるのではないかと考えた。

そこで令和2年度からは、年度当初と学期末にアンケートを実施し、強い肯定の数値を取組みの成果として見取ることとした。このアンケート内容を集約し、学年会で共有することで、今後の展望や対策を練ることにつながった。1年生では実際に、全5問中4問の強い肯定回答が入学当初から12月にかけて上昇し、特に「中学校に入学してから、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思いますか」の項目では、入学当初から比べ14.7pt上昇した。この結果は、職員にとって大きな励みになると共に、自信にもつながった。今後もアンケートを定期的に取り、取組みの進捗を丁寧に見取ること、カリキュラム・マネジメントを学校の「文化」に落とし込み、異動者を含めたくさんの職員が協力できる環境を作り出していきたい。

1年生 カリキュラムマネジメント進捗確認表 アンケート結果

組	アンケート項目	学年の傾向				肯定的解答 A+B	強い肯定 A
		A そう思う	B どちらかといえば そう思う	C どちらかといえば そう思わない	D そう思わない		
6/19	中学校に入学してから、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思いますか	45.6%	43.3%	9.9%	1.2%	88.9%	45.6%
8/4		68.6%	26.7%	3.5%	1.2%	95.3%	68.6%
12/3		60.3%	31.8%	4.0%	4.0%	92.1%	60.3%
						0.0%	0.0%
6/19	中学校に入学してから、授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていましたか	47.4%	39.2%	11.1%	2.3%	86.5%	47.4%
8/4		43.0%	46.5%	9.9%	0.6%	89.5%	43.0%
12/3		51.7%	33.8%	9.9%	4.6%	85.5%	51.7%
						0.0%	0.0%
6/19	中学校に入学してから、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	48.0%	36.3%	13.5%	2.3%	84.2%	48.0%
8/4		41.3%	43.6%	13.4%	1.7%	84.9%	41.3%
12/3		47.7%	39.7%	7.9%	4.6%	87.4%	47.7%
						0.0%	0.0%
6/19	中学校に入学してから、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話し合いなどで工夫して発表していたと思いますか	35.7%	49.1%	12.9%	2.3%	84.8%	35.7%
8/4		32.6%	46.5%	18.0%	2.9%	79.1%	32.6%
12/3		37.7%	47.0%	9.9%	5.3%	84.7%	37.7%
						0.0%	0.0%
6/19	中学校に入学してから、みんなで話し合っただけでなく、協力して取り組み、うれしかったことがありますか	59.6%	30.4%	7.0%	2.9%	90.1%	59.6%
8/4		68.6%	22.1%	8.7%	0.6%	90.7%	68.6%
12/3		65.6%	23.8%	5.3%	5.3%	89.4%	65.6%
						0.0%	0.0%
						0.0%	0.0%

目標としている強い肯定の上昇は5問中4問達成しました。

質問① 45.6→60.3 (+14.7) 大幅UP!! 質問② 47.4→51.7 (+4.3)

質問④ 35.7→37.7 (+2.0) 質問⑤ 59.6→65.6 (+6.0)

特に、質問①話し合う活動の充実では、+14.7となっており、様々な教科で意図的に取組を進めていることが、結果として表れています。先生方ありがとうございます。これからもがんばりましょう!

質問③については、生徒が総合第2期の取組の難しさを感じているのかもしれませんが、発表までに、生徒の自己肯定感を高められるよう、教員の適度な介入が必要と感じます。学年全体で協力していきましょう。ただし、肯定的な回答は、84.2→87.4と+3.2に上昇しています。

3. 次年度に向けて

(1) 2年間の成果と課題

○「大人が変われば子どもが変わる。子どもが変われば大人が変わる。」

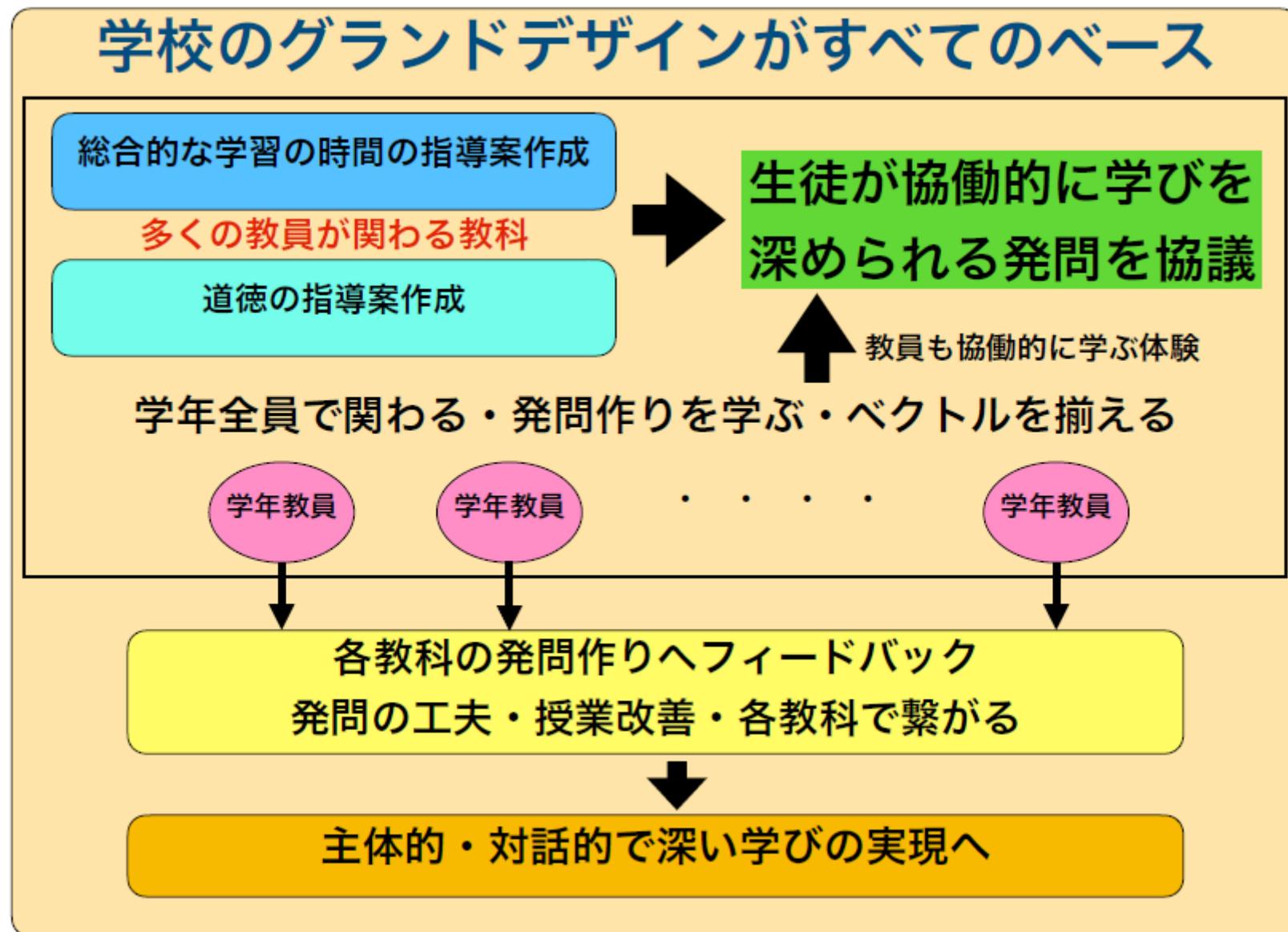
2年間の本校の大きな成果は生徒の様子に変化があったことである。1年めは「自信を持って、自分の意見を言うことができない」「意見をぶつけ合うことができない」などの課題が多く見られた。しかし、「自分の意見」を言う機会を教科等横断的に持ち続け、「自分の考えに間違いなんてない」と言い続けることで、生徒は安心して意見を出せるようになり、意見を出す必要性を感じることができた。指導方法を工夫すれば、子どもの力は伸ばすことができ、「できない」ことも「できる」ようになることを目の当たりにすることができた。そして、「大人（教員）の指導方法が変われば子ども（生徒）が変わる。そして、子どもが変われば大人も変わる。」という成功体験をもとに、2年次の取組みを力強く推進することができた。大人同士で気づき合えることも、子どもから気づかされることも多々あった。たくさんの人を巻き込めば巻き込むほど、多くの変化が現れる可能性を秘めている。これからもできるだけたくさんの人を巻き込み、学校の取組みが深化していくことをめざすつもりである。

○教科の壁を超える

道徳や総合的な学習の時間の授業について、より考えが巡るような主発問を学年全体で協議することで、各教科の授業が生徒に主体性を持たせるよう改善されることは大きな発見であった。たくさんの教職員が関わる総合的な学習の時間を軸として、各教科内の活動内容がより生徒主体のものへと変化し、つけたい資質・能力を意識するようになった。教科の壁を越え、授業の主体が生徒へと移り変わっていく過程を本校が歩んでいるように感じる。

○既存の取組みの見直し

学校のグランドデザインに基づく授業改善を進める中で、学校の既存の取組みの見直しも加速した。グランドデザインで示した生徒につける資質・能力と合致させるために、朝読書のあり方や、修学旅行を含む校外学習についても見直しを図り、「何を身につけ、何を学ぶのか」「3年間でどう系統立てるのか」という視点で議論を交わすことができている。また、生徒が主体的に学校を変えようとする力も芽生えだし、例えば生徒会を通じて「テスト範囲の公表時期を早めてもらい、計画的に学習を進めたい」という要望を叶えることができた。



○数値としての成果

前述のアンケート結果のとおり、5項目中4項目で強い肯定的な回答が上昇しており、取組みの成果が伺える。しかしながら、本校の取組みの成果をアンケート数値で見取るには、取組みが途中段階であるため、分析しきれていないと言えない。この取組みを継続し、一過性のものではなく、経年比較や同一集団比較までできるよう、学校の「文化」にまで落とし込むことが本校の課題である。

○最後に

カリキュラム・マネジメントの研究を進めることで、学校全体のビジョンや「つけたい資質・能力」を明確にし、教職員・生徒が同じベクトルで取組みを推進することができた。教職員や教科が各々で生徒の力をつけるのではなく、計画的に組織的に力をつけることで、生徒は力をより効果的に身につけることができている。生徒が自己肯定感をもって学び続けられるよう、この取組みを継続し、本校の文化としていきたい。